

竹の子川柳会

ふわふわの雲にとびのりおさんぽだ

小二 翔太

遠くてもゴールを目指す一歩ずつ

小五 清也

疲れてもソフト練習がんばるぞ

小六 海士

人生はまだまだ遠い道がある

小六 海斗

髪を切り首もと寒い登校中

中一 ななみ

どうしよう髪を切ろうか迷ってる

中三 瑠依

目の保養遠い存在あこがれる

中三 ちひろ

フワフワのソフトクリームおいしいな

中三 聖羅

髪を切り心機一転がんばるぞ

中三 聖羽

ダイエット三日坊主だ続かない

高一 沙耶

髪切って印象変わるイメチェンだ

高三 夢菜

母さんのソフトな声はねむくなる

高三 美咲

新品のソフトを買ってさあやるぞ

高三 直輝

メンバーの熱意で綴る川柳誌

山本 雅之

帰省してメンバーになる村祭り

男武志津江

この伴侶メンバーチェンジしてほしい

伊勢本 恵

酔っぱらいカニに真っ直ぐ歩けとは

水野すみこ

欲ばりの世間のうわさ横恋慕

宇都宮 忍

横たわる山は越えたがミスもある

熊本 忠真

出る杭に横槍入れた跡がある

若宮 賢敬

五十年そろそろ糸も細くなり

米子 達雄

退院の足はそろそろ気は逸る

渡辺 照子

そろそろの運転うしろ数珠つなぎ

川添 忠昭

もうそろそろお開き口火切る幹事

加藤 桂子

野良仕事そろそろ昼の腹時計

渡辺 光男

ひよし川柳会

鬼北の足跡を辿る【第1回】

「等妙寺旧境内発掘調査の経緯と経過」

等妙寺は鎌倉時代末の元応2年(1320年)、理玉和尚が奈良山に開いたことに始まります。天台系律宗の中四国唯一の戒場とされ、戒律護持の寺として地域の中核寺院に発展、隆盛を極めました。

しかし、天正16年(1588年)、「天火により七堂伽藍ごとく焼失」し、2年後に山下の靈光庵跡(現等妙寺)にて再建されますが、庇護者を失い、衰退していきましました。焼失した旧寺城は、以後、大きな開発を受けることなく護られてきたため、遺構は良好な保存状態です。

等妙寺旧境内の調査は、平成2年の確認調査に始まり、平成6年から10年の第1次調査、平成14年度から国指定を目指して本格的に調査を開始しました。平成20年には念願の国の指定を受けましたが、史跡保護のための保存管理、整備活用へと歩みを進める上で大きな課題となつたのが、史跡の内容把握です。

そのため、各地区(西・中央・東・北)の代表的な平坦部について発掘調査を進めながら、段階的に整備を進める計画とし、史跡の中核と考えられる「本堂跡」と伝わる平坦部Aから把握を進めることにしました。過去にも

数回試掘調査が実施されてはいるものの、建物の規模や間取り、遺構の性格や変遷状況を把握するまでには至っていませんでした。

こうした中で、平成24年度から5年間に渡り、面的な発掘調査を進めてきた結果、新旧2時間におよぶ本堂跡の確認、客殿と庫裏一体建築と考えられる本坊跡など、かなり具体的な姿が明らかになってきたのです。

今年度は、昨年度に継続して、滝や池を伴う庭園の発掘調査を実施しており、全体像の解明まであと一歩です。成果は逐次公開予定ですので、楽しみにお待ちください。



等妙寺旧境内本堂・本坊跡航空写真